

垣内顕治さんの発言要旨

そもそも医療とは何か？医療は自由にできず、国家資格で成り立っている。基本は憲法であり、国の責任。そのために専門職が国に代わって働いている。健康であることが権利であることを自覚している人は少ない。健康を守るのは国の責任であり、25 条に規定されている。そのことが忘れられている。具体的な提供の仕方は国によって違うが基本は 3 種類ある。①日本のような社会保険方式。日本とヨーロッパ。②税金の中から必要な医療を提供するカナダ、北欧、イギリスなどの税方式。③アメリカの医療には高齢者や障害者以外に公的な保険制度はない。完全な至上主義。どれがいいかは国によって考え方が違う。保険に入らずに海外旅行をすることができないように、先進国の医療費は海外でも高額。対 GDP 比で 1 位はアメリカ、日本の総額は多いが一人当たりの医療費は 21 位。単純な比較でアメリカの医療費は日本の 3 倍。アメリカでは救急車も差別化されている。例えば、安い保険では信号で止まる。保険会社が掛る病院を制限している。カナダの医療費は基本的に無料。しかし、病院の数が少ない。バンクーバーでは CT も少なく、2～3 カ月待ち。お金持ちはアメリカに行って医療を受ける。だからと言ってアメリカ人は医療制度を変えようとはしない。差別医療は当然としている。日本の医師はアメリカの 3 分の 1 の医師がアメリカの 4 倍の患者を診ている。忙しい上に、医療従事者の献身的な努力に支えられているのが日本の医療。TPP を歓迎する医師もいる。TPP は単純に言えばアメリカの医療制度になるということ。そうなれば医療費が増え給料も増える。患者数も減って儲かるので医者の中には賛成の人もある。医師会は反対しているが、美容整形のような自由診療は儲かっており歓迎する医師も多く、反対の一枚岩ではない。医師会が反対しているのは国民にとってマイナス面が大きいと考えているから。TPP 導入でどうなるかはアメリカの医療制度を見れば一目瞭然。医療費は今の 3 倍になる。そこに民間企業が入る隙ができる。アメリカでは破産の原因の半分は高額な医療費であり、後は離婚とされる。混合診療で医療費が高額となり民間保険が儲かる。万が一に弱いのが人間。そこに保険会社の思惑が働いている。医療保険で認められてない薬は高い。高い薬を売りたいという製薬会社は自由診療を歓迎する。外国の医師が日本に入ってくるとか、日本の医師が海外に出て行くことはほとんどない。その原因は言葉の壁であり、先進国で英語ができないのは日本くらいだ。逆に言葉の壁で日本は守られている。医療にとって言葉の壁は大きい。阪神大震災でも外国人医師が支援に来たがコミュニケーションができずに救援活動にならなかった。TPP の狙いはあくまでお金が狙い。